

科目名	事業承継論特講	担当者	ソネ 曾根 ヒデカズ 秀一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、「事業承継」について経営学の視点から理解し、その知識を得るとともに、実践的な課題解決に関して修得することを目的とする。</p> <p>日本の地域、経済の活性化を担っていく存在として、近年、中小企業とりわけ、ファミリービジネス（同族企業、家族企業）に注目が集まっている。また、欧米の大学では、ファミリービジネス論の授業が盛んに行われ、わが国でもファミリービジネスを取り扱った授業が増えつつある。その中でも本講義では、ファミリービジネスの中でも重要項目となる事業承継に焦点をあて、理解を深めていく。「理論・概念」と「実例」の対応関係に留意し資料の読み込みがのぞまれる。</p> <p>以上の目的を達成することにより、理解力に加え、論理的かつ批判的思考力を中心に、問題発見、解決能力、計画・戦略立案、導入、遂行できる能力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 ファミリービジネスならびに事業承継の内容と位置づけについて、専門性を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリービジネスの基礎となる概要及び基礎理論を説明できる（知識）。 ・それをもとに、事業承継の仕組みを理解し、ケース事例を分析・評価・形成できる（技能）。 ・経営学の理論や情報などをもとに、事業承継に関する諸課題解決策の議論に参加し、コミュニケーションする（態度）。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した指導を実施する。 <p>【学修方略（LS）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教材の熟読ならびに体系的理解する。 2. 長寿企業、ファミリー企業における事業承継の特徴や問題点を理解する。 3. 事業承継に至るまでの後継者育成について理解する。 4. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の比較検討を行う。 <p>1つのレポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上Manaba-folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。合計45時間を要す。</p>		
スケジュール	<p>複数回にわたるレポートを提出することで修士論文作成の際の必要となる基礎的な事項を修得することができる。具体的には、第1回目のレポートの草稿は、遅くとも最終提出期限の1か月前を目安にすること。レポートの最終稿の提出時期については、学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容の理解、修得、レポートの構成、文章表現を基準とする。
	観察記録	20%	草稿段階から最終稿に至るまでのプロセスや取組みを評価基準とする。
履修者への要望	<p>経営関連科目の基礎の理解が前提のため、経営関連科目との同時履修が望ましい。また、他のファミリービジネス関連の履修も望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 倉科敏材編『オーナー企業の経営：進化するファミリービジネス』（中央経済社、2008年） ISBN:978-4-502-66160-0 2,600円+税 教材名：
	テキストはファミリービジネスに関して、網羅的に論じたものである。主な研究成果を体系的に概説しており、その優位性・特徴、成長と発展、経営戦略、事業承継、ガバナンス、社会的責任などを相互関連に着目して理解するのに適している。事業承継の理解に加えて、それに関連した諸事情の理解に有効である。
参考図書	星野妙子編 『ファミリービジネスの経営と革新—アジアとラテンアメリカー』（アジア経済研究所、2004年） ISBN: 978-4-258-04538-9 4,500円+税 落合康裕 『事業承継のジレンマ：後継者の制約と自律のマネジメント』（白桃書房、2016年） ISBN: 978-456126682-2 3,200円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・事業承継の概要、プロセスについて理解する ・ファミリー企業と非ファミリー企業の事業承継の違いを理解する。 ・事業承継の課題と解決策について理解する。
レポート課題 1	事業承継の難しさとその解決策について述べよ。 留意点： スリー・デメンショナル・モデル、コンフリクトに触れながら論じること。承継の困難を乗り越えたケースを1つ以上あげて補足すること。
レポート課題 2	後継者自身がリーダーへと成長するうえで重要な要因を述べよ。 留意点： 具体的なケースを1つ以上あげて補足すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 曾根秀一『老舗企業の存続メカニズム：宮大工企業のビジネスシステム』（中央経済社、教材名： 2019年） ISBN:978-4-502-29981-0 3800円+税
	本書はファミリービジネスの中でも長期存続してきた建築企業群4社を対象に、老舗企業の存続や事業承継のメカニズムを経営学（とくに経営戦略論、組織論）、経営史学融合の方法から論じたものである。そして、そこから伝統と革新のダイナミズムの解明に取り組んでいる。ファミリー型長寿企業にみられる商慣習やしきたりといった厳しい伝統の継承が求められることが多いファミリー型長寿企業の経営者は、どのようにして独創的な行動をとり次世代の経営者として育てていくのか、など先行研究では触れられてこなかった点について議論が進められる。
参考図書	デニス・ケニヨン・ルヴィネ・ジョン・ウォード編 『ファミリービジネス永続の戦略』（ダイヤモンド社、2007年） ISBN:978-4-478-33125-5 2,000円+税 ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠男編 『日本のファミリービジネス：その永続性を探る』（中央経済社、2016年） ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国における長期存続企業の事業承継について理解する。 ・事業承継における後継者の正統性の問題を理解する。 ・承継プロセスにおける承業経営者の役割に着目し、その必要性について理解する。
レポート課題 1	承業経営者（中興の祖）および企業家精神の発露が長期存続に対してどのように関連するのか述べよ。 留意点： 複数企業の事例を含めながら説明することが望ましい。
レポート課題 2	長期存続を果たすために最も重要なことは何であるか。事業承継の視点も含めながら述べよ。 留意点： 著者が論じていることをまとめたうえで見解を示してほしい。

基本教材 1

第 1 回	オリエンテーション：より詳細な授業の概要説明と導入
第 2 回	事業承継、ファミリービジネスの定義・概要・特徴
第 3 回	事業承継、ファミリービジネスの先行研究と理論
第 4 回	ファミリービジネスの類型
第 5 回	ファミリービジネスのガバナンス
第 6 回	ファミリービジネスの存続と後継者育成
第 7 回	ファミリービジネスの経営戦略
第 8 回	ファミリーアントレプレナーの特性
第 9 回	ファミリービジネスの顧客関係維持
第 10 回	地域におけるファミリービジネス
第 11 回	ファミリービジネスの国際比較
第 12 回	ファミリービジネスの未来と課題、レポート課題 1, 2 の初稿の提出
第 13 回	レポート課題 1 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 2 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 15 回	まとめと振り返り：レポート課題 1, 2 に関する自らの考えを共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	オリエンテーション：より詳細な授業の概要説明と導入
第 2 回	老舗企業の定義・概要・特徴
第 3 回	老舗、ファミリービジネス研究の変遷
第 4 回	ファミリービジネス、事業承継を捉えた理論
第 5 回	長期存続を果たす経営の人材
第 6 回	長期存続を果たすガバナンス
第 7 回	顧客関係、組織構造、技能の継承を反映した事業承継
第 8 回	承業経営者（継承経営者）の誕生とその役割
第 9 回	生得的獲得と十全的参加
第 10 回	事業承継と存続の軌跡
第 11 回	組織文化と企業家精神
第 12 回	持続可能な経営論の再考、レポート課題 1, 2 の初稿の提出
第 13 回	レポート課題 1 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 2 に関する教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 15 回	まとめと振り返り：レポート課題 1, 2 に関する自らの考えを共有し最終レポートを提出する